

清水 裕子 教授 略歴・主要研究業績

略 歴

- 1981年3月 国際基督教大学教養学部卒業
- 1981年9月 University of California, Los Angeles (UCLA) 大学院修士課程
Teaching English as a Second Language (TESL) 専攻入学
- 1982年6月 同校同課程において Certificate in TESL 課程修了
- 1984年3月 同校同課程において M.A. in TESL 課程修了
- 1984年4月 聖母学院中学・高等学校教諭 (～1989年3月)
- 1989年4月 滋賀大学経済短期大学部 講師 (後に助教授) (1991年4月～1993年3月滋賀大学経済学部併任)
- 1993年4月 近畿大学教養部 講師 (後に助教授) (～1998年3月)
- 1998年4月 立命館大学経済学部 助教授 (後に教授)
- 2003年4月～ 立命館大学言語教育情報研究科 兼任 (現在に至る)
- 2013年8月～ 在外研究: University of British Columbia (UBC)、Faculty of Education (Measurement, Evaluation, and Research Methodology) において Dr. Bruno Zumbo に師事 (～2014年9月)
- 2018年4月～ 立命館大学食マネジメント学部 教授 (現在に至る)
- 2019年9月～ 学内研究 (立命館大学) (～2020年3月)

【所属学会】(2022年3月現在)

日本言語テスト学会 (JLTA)、日本テスト学会 (JART)、The Pan-Pacific Association of Applied Linguistics (PAAL)、大学英語教育学会 (JACET)

【学会および社会における諸活動】

- 1990年4月～ 社団法人日本ユネスコ協会連名会員 (～1993年3月)
- 2005年7月～ 英語運用能力評価協会 (ELPA) アドバイザリー (現在に至る)
- 2005年4月～ 立命館宇治高等学校平成17年度 SEL Hi 運営指導委員 (～2008年3月)
- 2009年4月～ 奈良県立生駒高校「英語教育改善のための調査研究事業」運営指導委員 (～2012年3月)
- 2010年年度～ 日本言語テスト学会 (JLTA) 理事 (現在に至る)
- 2011年4月～ 総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」に係る「和歌山みらい学校事業推進協議会」委員 (H23年度～25年度) (～2014年3月)
- 2012年4月～ 関西英語教育学会 (KELES) 副会長 (～2016年3月)
- 2014年4月～ 日本言語テスト学会 (JLTA) 副会長 (現在に至る)

【その他】

- 公益財団法人日本英語検定協会 第1回 (1988年度)「英検」研究助成入選
- 立命館教職員評価制度にもとづく評価・報奨者として表彰 (2005年度および2009年度) (学内表彰)
- 日本テスト学会論文賞受賞 (共同) (2007.8)

【学内役職】

- BKC 英語部会長 (2006年度、2010年度)
- 言語教育センター・副センター長 (2016年度)

主要業績一覧

【書籍等出版物】

- 「第6章・1. クローズ・テスト」(pp.192-198) (分担執筆) 『英語科教育実践講座 12: コミュニケーション能力の評価』 株式会社ニチブン、1992
- 『音声英語の理論と実践』 (共著) 英宝社、全144頁、1997
- 『TOEIC テスト速解ナビゲーター入門編』 (単著) 三修社、全236頁、1999
- 「9巻4章1節 古典的テスト理論と現代テスト理論」(分担執筆) 『CD-ROM版 中学英語科教育実践講座・理論編』 ニチブン、2005
- 「第2章: ESPの理論と実践 2.1 ニーズ分析」(pp.17-25) (分担執筆) 『英語教育学大系 第4巻 21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践』 大修館書店、全254頁、2010
- 「第8章テストと評価 第4節言語テスト開発」(pp.220-223) (分担執筆) 『英語教育学の今—理論と実践の統合—』 全国英語教育学会第40回研究大会記念特別誌編集委員会編、全436頁、2014
- 「3.2.9 妥当性検証」(pp.90-93) (分担執筆) 『日本言語テスト学会誌第19号 20周年記念特別号』 日本テスト学会、全249頁、2016

【教科書】

- 『Dynamic Reading』 (共編著) マクミランランゲージハウス、全80頁、1996
- 『TOEIC Listening Clues』 (共著) 三修社、全57頁、1998
- 『Independent Reader』 (共編著) マクミランランゲージハウス、全162頁、1998
- 『Mainstream English Course I, II, Reading Course』 および 『New Stream English Course I・II・Reading Course』 (共編著) (文部科学省検定済教科書) 増進堂、2003～
- 『Top-Notch Students: Study Skills for Japanese University Students』 (監修) マクミランランゲージハウス、2005
- 『Reading Activator』 (共編著) McGraw-Hill Education (Asia)、全105頁、2007
- 『Reading Activator: Basic』 (共編著) McGraw-Hill Education (Asia)、全101頁、2007
- 『Circuit Grammar Training』 (共編著) Cengage Learning、全135頁、2010
- 『NEW STREAM English Communication I・II・III』 および 『NEW FLAG English Communication I・II・III』 (共編著) (文部科学省検定済教科書)、2012～

【学術論文】

- 「読解活動とクローズ・テストに関する一考察」(単著) 『京都府私学研究論集』 26号、pp.49-58、1988.3
- 「英検筆記試験とクローズ・テストにみられる相関に関する研究」(「英検」研究助成入選研究) (単著) 『STEP BULLETIN Vol. 1』 英語検定協会、pp.103-116、1989.3
- 「G-TELP、パイロット・テストの結果報告と英語テストに関する考察」(単著) 『聖母学院研究年報』 7号、pp.1-12、1989.3
- 「夜間短期大学の英語教育における学習者の多様性と学力差」(単著) 『中部地区英語教育学会紀要』 20号、pp.74-79、1991.5
- “A tool to measure English ability of diverse learners: comparison of a cloze test and two types of a grammar test” (単著) 『彦根論叢』 第270・271号、pp.193-208、1991.7
- 「速読指導の効果に関する研究」(単著) 『英語教育研究・SELT』 16号、pp.81-87、1993.4
- 「日本人大学生の読解態度と英語力の変化」(単著) 『近畿大学教養部研究紀要』 第28巻第2号、pp.55-67、1996.12
- 「各種リーディングテストにおける自己得点の予測」(共著) 『英語教育研究・SELT』 20、pp.66-71、1997.3
- 「質問紙による英語リーディングテストの表面的妥当性と波及効果の研究」(共著) *Language Laboratory* 第34号、

- 語学ラボラトリー学会 (LLA)、pp.75-92、1997.6
- “FL reading and multi-media: Psycho-linguistic views” (共著) *On JALT 96: Crossing Board*, The Japan Association for Language Teaching, pp.80-85, 1997.8
- “Analysis of objective test items: Towards a revision of the placement test” (単著) 『立命館言語文化研究』11 巻第 2 号、pp.119-127、1999.9.30
- 「工学系大学卒業生の英語ニーズ分析—質問紙調査に基づいて」(共著) 『立命館経済学』第 50 巻第 4 号、pp.56-73、2001.10
- “Survey research on the use of placement tests at four-year universities in Japan” (単著) 『立命館言語文化研究』14 巻第 1 号、pp.231-243、2002.5
- 「英文法能力標準テストの妥当性・信頼性の検証と新英語文法能力テスト Measure of English Grammar (MEG)」(共著) 『政策科学』10 巻 3 号、pp.59-68、2003.3
- 「プレイズメントテスト結果分析と諸問題—今後の課題にむけて」(単著) 『立命館言語文化研究』14 巻第 4 号、pp.181-188、2003.2
- “The development of grammatical competence of Japanese EFL learners: Focusing on unaccusative/unergative verbs” (共著) *ARELE (Annual Review of English Language Education in Japan)*, Vol.14, pp.1-10, 2003.3
- “The influence of the test taking strategies on the reliability of test items in English tests” (共著) *ARELE (Annual Review of English Language Education in Japan)*, Vol. 14, pp.221-230, 2003.3.
- “The construction of a database of university English entrance examinations in Japan” (共著) *Testing International*, 13 (2), pp.8-11, 2003
- “A logistic regression for differential item functioning primer” (共著) *The Japan Language Testing Association Journal*. No.7, pp.110-124, 2005.2
- 「測定における妥当性の理解のために—基本概念として—」(単著) 『立命館言語文化研究』16 巻 4 号、pp.241-254、2005.3
- 「大学入試センター試験既出問題を利用した共通受験者計画による英語学力の経年変化調査」(共著) 『日本テスト学会誌』Vol.1、No.1、pp.51-58、2005.3
- “Developing a sample-free grammatical proficiency test for SLA research” (共著) *Proceedings of the 10th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, pp.227-236, 2006.3
- 「経済学部卒業生の英語使用に関するニーズ分析」(共著) 『立命館経済学』第 56 巻 3 号、pp.169-181、2007.9
- 「学習者アンケートからみる e ラーニングの学習態度と効果」(共著) 『立命館経済学』第 60 巻 6 号、pp.44-54、2012.3
- 「経済学部英語圏短期留学プログラムにおけるスピーキング・テストの実施とその結果報告」(共著) 『立命館高等教育研究』14 号、pp. 91-102、2014.3
- “Changes in Japanese EFL learners’ proficiency: An application of latent rank theory” (共著) In D. Vicari, A. Okada, G. Ragozini, C. Weihs (Eds.) *Analysis and Modeling of Complex Data in Behavioural and Social Sciences*. Springer, pp.263-271, 2014
- 「大学入学時における大規模英語プレイズメントテストの分析と英語力の経年変化」(共著) 『言語研究と量的アプローチ』金星堂、pp.266-278、2016.3.
- 「言語テスト研究と第二言語習得研究の接点—項目応答理論の援用—」(共著) 『応用言語学の最前線—言語教育の現在と未来—』野口ジュディー・津多江教授退職・古稀記念論文編集委員会編、金星堂、pp. 85-100、2017.3
- 「大学英語カリキュラムにおける外部スピーキングテストの導入と質問紙による妥当性検証」(共著) *Studies in Language Science Working Papers, Number 9*, Graduate School of Language Education and Information Science, Ritsumeikan University, pp.1-14, 2019.12
- “Bridging learning and testing in an EFL curriculum: Pursuing the effective use of a commercially produced

speaking test” (共著) *JACET International Convention Selected Papers, Volume 7*, pp.138-159, 2020.9

【その他】

- 「導入からコミュニケーションまで (1) 発展的なタスクを活用した SVO の指導」(共著)『現代英語教育』4月号 (第31巻1号)、研究社、pp.32-35 (同シリーズその他3本)、1994.4. ~ 1995.1
- 「JACET 英語中級聴解力標準テスト」(大学英語教育学会関西支部リスニングテスト研究会編) (共同開発) 開拓社 マニュアル全24頁、テストテープ (36分)、1996.3
- 『英語授業 Q&A—教師の140の質問に答える』(分担執筆) 中教出版、1996.3
- 「観点別・スキル別評価の鉄則—スキル別評価法」(単著)『英語教育事典』vol. 2、アルク (株)、pp.28-31、1994.12
- 「大学入試センター試験の変遷—問題構成と配点をもとに」(単著)『英語教育』9月増刊号、大修館書店、pp.16-18、1997.8
- 「1年間のテストと評価を振り返る視点」(単著)『英語教育』3月号、Vol.48、No.15、大修館書店、pp.17-19、2000.3

【翻訳】

- 「第11章 採点法」(分担執筆) (pp.211-248) 『<実践>言語テスト作成法』(*Language Testing in Practice* by Bachman & Palmer)、大修館書店、全359頁、2000.10
- 「第23章 能力テストのデザイン」(分担執筆) (pp.555-572) 『テスト作成ハンドブック』(*Handbook of Test Development* by Steve M. Downing, Thomas M. Haladyna)、株式会社教育測定研究所、全818頁、2008.12

【思い出に残る口頭発表等】

学会報告

- 夜間短期大学の英語教育における問題点—学習者の多様性と学力差 (単独)、第20回中部地区英語教育学会、静岡県立大学、1991.8
- The Effects of a Reading Instruction on Comprehension Strategies and Language Abilities of College Students in Japan, Symposium on Some Psycholinguistic Perspective on Classroom Research and CAI Programs in EFL Reading, The 11th AILA World Congress, University of Jyväskylä, Finland, 1996.8
- The Effects of a Reading Instruction on Language Abilities and Attitudes Toward Reading, Colloquia on FL Reading and Multi-Media: Psycholinguistic Views, The 22th Annual Conference of The Japan Association for Language Teaching, International Conference Center Hiroshima, 1996.11
- Needs for English in the Japanese Workplace: A Survey of Engineering Graduates (共同)、12th AILA World Congress, Waseda University, 1999.8
- 4年制大学におけるプレイスメント・テストの実施状況に関する研究 (単独)、大学英語教育学会 (JACET) 第39回全国大会、沖縄国際大学、2000.11.4
- 英語試験問題における解答・出題順序の影響 (共同)、第28回全国英語教育学会神戸研究大会、神戸大学、2002.8.23
- Towards the Construction of an English Test Database (共同)、TESL Canada Conference, Burnaby Canada (Poster Sessions), 2003.11.13-15
- 多様な入試と多様な英語力の中で、シンポジウム「入学試験における言語テストのあり方」日本言語テスト学会 (JLTA) 第9回全国研究大会、静岡産業大学、2005.9.3
- ESP Based Program for Economics Students in a Japanese University (共同)、The 15th AILA World Congress, The Congress Center Essen, Germany, 2008.8.24-29
- 出口テストとしての外部試験の活用とその妥当性 (共同)、大学英語教育学会 (JACET) 第49回全国大会、北海

学園大学、2009.9.5

Bridging Learning and Testing in an EFL Curriculum: Pursuing the Effective Use of a Commercially Produced Speaking Test (共同), The 58th JACET International Convention at Nagoya Institute of Technology, Aichi, 2019.8.28

セミナー等での講演

早期英語教育について：深草小学校の窓から世界が見える、京都市立深草小学校第7回家庭教育学級、京都市立深草小学校、1991.12

Choosing the Right Stuff: Materials and Activities that Work—Developing Reading Strategies, Macmillan LanguageHouse Seminars for Teachers of English, Murata Business School (Tokyo), 1999.11.27

ユーザー・フレンドリーなテストとは？—Back to the Learners、平成12年度中学校「英語」コミュニケーション研修、大阪教育センター、2000.10.13

より良いテストをめざして—項目作成の実習と項目分析入門、関西英語教育学会 (KELES) 第3回セミナー、龍谷大学深草学舎、2006.12.16

立命館大学における TOEIC-IP テストの活用～学園の支援と経済学部の取り組み～ (共同)、TOEIC 研究会、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、アイビーホール青学会館、2007.11.13

清く、正しく、美しいテストを作る (共同)、日本学術振興会学術研究助成基金基盤研究 C (代表：村上裕美先生) 主催、関西外国語大学、2015.10.31

Language Testing 入門、令和元年度外国語指導助手の指導力向上研修 (滋賀県教育委員会)、ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター、2019.11.26

オンライン授業における日本の英語教育の現状と課題、今後の評価・テストへの提言 (共同)、ELPA 教育セミナー 2020 (オンライン)、2020.9.6

